

小学校高学年（5・6年生）の保護者の皆様へ

家族パワーで学力アップ！

家庭学習のすすめ



香取市教育委員会

「家庭学習のすすめ（リーフレット）」

家庭学習の重要性が
改めて注目されています。



子どもたち一人ひとりには多様な可能性を秘めた存在であり、その力は学校・家庭・地域が連携することにより、育まれる効果が高まります。家庭では、その基盤となる資質や能力、態度を養っていただくことが重要になります。例えば、早寝早起きの習慣、家の手伝い、家庭学習の定着などです。

今回、香取市教育委員会では、家庭学習が充実するよう「家庭学習のすすめ（リーフレット）」を作成しました。お子様の家庭学習が習慣化され、社会で自立し、「生きる力」が向上するよう、ぜひ本手引きをご活用ください。

家庭学習による効果

家庭学習によって、次のような効果が期待できます。



その1 学習したことがしっかきと身につきます！

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。また、予習することも大切です。予習は授業を分かりやすくします。

特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。学校で「分かった」ことが、反復練習によって「できる」という自信につながります。

その2 脳の働きがよくなります！

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように毎日繰り返し使うことで活発に働くようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことに順応できるようになります。年齢の小さいうちからどんどん脳を鍛えたいものです。

その3 学習する習慣が身につきます！

毎日、一定時間、決まった場所で家庭学習を続けることにより、自ら進んで学習する習慣が身につきます。毎日続けることで、やがて、あたりまえの習慣になり、学ぶ力が大きく伸びていきます。毎日欠かさず家庭学習をするという習慣を続けさせてください。

その4 忍耐力・根気・集中力が高まります！

家庭学習の最大の敵は、テレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、我慢強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲームなどの時間を決めて、学習や読書等の時間をしっかりと確保したいものです。そのためには、家庭学習の時間にはテレビを消す、スマートフォン（携帯電話）をマナーモードにするといった家族全員の協力も必要です。

その5 家族のふれあいの時間が増えます！

低学年のうちから「本を読んでいるとき、近くで聞いてあげる」「勉強が分からないとき、ヒントを与えたり一緒に考えたりしてあげる」など、学習している子どもに親がかかわることによりコミュニケーションが図れます。家族の触れ合いが増えることは、やがてくる思春期の子どもへの対応にも影響を及ぼします。触れ合いを多くもつことにより、親として適切なアドバイスも可能となり、心身ともに健やかな子どもの育成につながります。

家庭学習の習慣化 5つのポイント



家庭でできることは、家庭学習の環境づくりです。まずは、親子が触れあって、学習習慣が身に付くような場づくりから始めましょう。

ポイント1 生活のリズムを整えましょう

- ① 「早寝・早起き・朝ご飯」や朝の排便など、規則正しい生活を送らせましょう。
- ② 規則正しい食習慣をつけ、基礎体力をつけさせましょう。
- ③ テレビやゲームの時間などの決まりをつくり、約束事を守らせましょう。

ポイント2 学ぶ雰囲気をつくりましょう

- ① 学習の場所は、学習机でも食卓でも構いません。静かで集中できることが肝心です。テレビも消しましょう。学ぶ雰囲気づくりは、家族の協力が必要です。
- ② 身の回りの整理整頓をさせましょう。学習の場は、学習に使うものだけを置くようにし、マンガなど気の散るようなものは近くに置かないようにさせましょう。

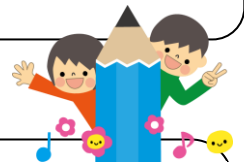
ポイント3 努力を認め、励ましましょう

- ① ものごとをやり遂げる成功体験により、子どもは自信をもち、意欲を高めます。「よくできたね」「きれいに書けたね」など、がんばりを認める言葉をかけましょう。
- ② 「この問題、分からない」というときも、投げ出したりすることがないように「こうしたらいいんじゃない」と、子どもの努力に力を貸しましょう。やってみてどうもはっきりしないときは「明日、先生に聞いてごらん」とアドバイスをしてください。

ポイント4 子どもとの対話を深めましょう

- ① 学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもががんばっていることや困っていることを理解するようにしましょう。
- ② 新聞記事やニュースなどを話題にして、社会へ目を向けさせましょう。

ポイント5 生活の中の学びを大切にしましょう



- ① 買い物に行ったとき、野菜や魚の名前を見て漢字を覚えたり、商品がどこでつくられたか、産地はどこかなどを話し合えば、社会的な見方が身に付いてきます。
- ② お手伝いや家事を分担して、人の役に立つことの喜びを味わわせましょう。また、生活の中でのものの見方や考え方を広め、深めていくことで、知的な好奇心が育ちます。

自主学習 チャレンジコーナー5・6年

- ☆ 宿題から自主学習までの流れの例を示してみました。
- ☆ お子様が実際に取り組むときの参考となれば幸いです。

【始めに】

- ・ **まず、宿題です。**
- ・ **宿題が終わったら次から選んでチャレンジできるように励ましてください。**

【チャレンジメニュー】

国語

- これまで習った漢字を繰り返し練習する。
- 漢字の成り立ちを調べる。
- 教科書の音読や詩、短歌の暗唱をする。
- 新しく習った漢字を使って熟語や短文を作る。
- テストで間違えた問題に再チャレンジする。
- 本を読んで読書感想文を書く。また、日記や手紙を書く。
- 次に学習する物語文や説明文の中に出てくる言葉の意味調べをする。

- ★学校から帰ったらすぐやる
 - ★テレビを消して集中してやる
 - ★家庭学習の時間を決めて続けてやる
- この3つが守れるといいですね。



算数

- 計算（ドリル）練習をする。
- 教科書の問題を繰り返し解く。
- 授業で解いた問題をもう一度解く。
- 自分で問題をつくって解く。
- これまで習った公式を書いて覚える。
- テストで間違えた問題に再チャレンジする。

千葉県教育委員会では、学庭学習事例集（プリント素材）を提供していますので参考にしてください。

（<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>）

社会

- 興味のあることを、教科書や資料集から調べる。
- 学習したことを百科事典やインターネットを使って調べる。
- 世界の国々や日本のことを調べてまとめる。
- 学習したことを新聞にまとめる。

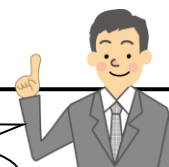
ご家庭のパソコンから「ラインズeライブラリ」の家庭学習サービスが利用できます。
ID・パスワード等は学校にお問い合わせください。

理科

- 学習したことを百科事典やインターネットを使って詳しく調べる。
- 身の回りから、不思議に思ったことや調べてみたいことを見つけて調べる。
- テストでまちがえた問題に再度取り組む。

【終わったら】

- ・ **時間わりを確かめて明日の準備を自分でさせてください。**
- ・ **最後に勉強した所を片付けさせて終了です。**



最後に勉強したことを認め、褒めてあげてください。
次のやる気につながります。